

# 中学生の主体的学習過程の考察

## — キャリア発達支援を通して —

三國 隆子

### はじめに

中学生が自分自身のこれからのキャリアを考える際に、先生でもなく友達でもない少し年上の「ナナメの関係」にあたる大学生と交流し、普段抱えている悩みや将来のことについて気軽に相談することで、気持ちが軽くなったり前向きな気持ちになれたり自らの課題に主体的に取り組んでみようと思う動機づけにつながるのではないだろうか。中学生にとって「ナナメの関係」にあたる大学生との協働的取り組みを実践したモデリング学習により、中学生がキャリア発達を身近に感じ、将来の自分の姿を思い描くことにつながり、その姿に向かって主体的に学んでいこうとする動機づけにつなげていけるのではないかと考える。

本稿では、大学と同じ地域にある資源を活用し、地域の商店街を教室として、同じ地域の中学生が主体的に参加する形で行う授業形態を提示する。学校での学びにとどまらず、中学生が地域に出て学習する形態の可能性や、地域社会の資源を活用した関わりを通して中学生の主体的な学習を引き出す動機づけや集団づくりにつながる学習の展望について述べていきたい。

### 中学生が主体的に学ぶ場を地域に求め、キャリア発達の学びを深めていく授業形態

中央教育審議会「今後の学校におけるキャリア教育・職業教育の在り方について(答申)」第6章「キャリア教育・職業教育の充実のための様々な連携の在り方」の章では、「キャリア教育・職業教育の推進に当たって必要不可欠な、地域・社会、産業界等、学校種間・異校種間、家庭・保護者、関係行政機関との連携の在り方」がまとめられている。

連携の基本的な考え方として「キャリア教育は、一人ひとりの生き方にかかわり、自己と働くこととの関連付けや価値付けを支援する教育であり、キャリア形成には、一人一人の成長・発達の過程における様々な経験や人との触れ合いなどが総合的にかかわってくる。」と記載されており、地域・社会の様々な連携の重要性が示唆されている。

また、「2、地域・社会との連携」においては「地域・社会の様々な立場の人々の中には、社会人・職業人としての知識や経験の豊富な者が数多くおり、学校の様々な教育活動に参画を得ることが不可欠である。」「地域・社会に対しては、学校教育への様々な支援方法があることを提示しつつ、協力を仰いでいくことなどが望まれる。また、学校における活動

への地域・社会の協力を促すための拠点整備等、施設面での対応も重要である。」とあり、学びの場は学校だけにとどまらず、中学生が実際に地域に出向いて学びを深めていくこともできるといえる。

## 中学生のキャリア発達を支援するナナメの関係性

澤田(2019)は、子どもの人間関係を「タテ」「ヨコ」「ナナメ」の3方向からとらえ、かつては地域や親戚の中で多くの大人とのつながりとしてあった「ナナメの関係」のもつ役割・機能を明確に示した。さらに現代において子どもたちが日々過ごしている学校が、「ナナメの関係」を形成する場所として相応しいことを指摘し、その関係を生徒指導・進路指導に活かす必要性について論じている。川合(2021)は、高大連携授業における大学生と高校生の協同作業を通して、高校の教員というタテの関係や高校生同士というヨコの関係ではなく、ナナメの関係である大学生が、高校生にどのような関わりをしているのかに注目し、肯定的な協同学習を経験することによって協同作業認識が変容していくことや、高校生にとって大学生の存在があこがれ(目標)に変わった時に、学習意欲に影響を与えることを明らかにしている。

文部科学省「子どもを守り育てる体制づくりのための有識者会議まとめ(第一次まとめ)」「2. 学校は、地域の人材を活用して「ナナメの関係」をつくろう!」において、以下の点が取り上げられている(下線は筆者による)。

- いじめの問題は学校及び教育だけで対応することには限界がある。地域ぐるみで対応し、地域社会が、子どもを育て見守る機能を補完する仕組みが必要である。
- 各学校において、地域の人材が授業を始めとする教育活動全体に参画できる多様な機会を用意し、子ども支援のネットワーク化を推進する必要がある。
- 子どもが身近に接する大人との多様な関係を学校内外で形成できるようにするためには、地域の人たちが気軽に学校に入れる仕組みが必要である。このため、学校は、安全管理に配慮しつつ、地域の自治会等との連携のもと校舎校庭の地域開放を積極的に進めることが大切である。
- 学校等に、PTA等が中心となり、地域のNPOや自治会、商店会、コンビニ、スーパー等とネットワークを組み、地域を再生する基盤となる学校の支援組織をつくる必要がある。また、保護者同士のネットワークを作ることも大切である。
- 小学生や中学生が興味・関心に応じて、放課後に多様な活動に参加することができる居場所づくりを進めることが大切である。
- 子どもたちの心の居場所として、学校図書館を、放課後や休日も含めて保護者や地域の大人とともに活用できる仕組みにすることが必要である。
- 子ども自身が生きる喜びや新たなことを発見したり、集団での長期宿泊体験を始めとした多様な体験活動の機会を用意することが必要である。総合的な学習の時間の活用方法も検討する必要がある。
- 各学校は、相談体制を今一度チェックし、子どもが心のよりどころにすることができる場所や窓口を複数設置する必要がある。この際、スクールカウンセラーとして学校に派遣されている臨床心理士等を校内全体の相談体制に明確に位置づけ連携を深めるなどに

より、子どもからのSOSの信号を逃さずキャッチできる体制を構築しなければならない。

○大学で心理学等を学んでいる学生や、教員免許を取得しているものの未だ教職に就いていない教員志望者等、子どもと比較的年齢に近い若者を子どもたちの相談相手として積極的に活用することが大切である。

○子どもが信頼を寄せて模範とするような人材や、子どもに大切なことを伝えていくための地域の協力者を粘り強く養成・確保していくための方策が必要である。

○地域が学校の運営に深く関わり、子どもの教育に当事者意識を持つことができるようにするため、地域運営学校（コミュニティスクール）の設置を推進する（例えば、10年間で3,000校）ことが必要である。

学校が地域の人材を活用して「ナナメの関係」を形成していくために以上の11点が挙げられている。下線部（筆者による）は、中学生にとっての学びの場を地域に求め、中学生と比較的年齢の近い大学生とのナナメの関係によって、中学生の学びの幅が広がっていく可能性を示唆しているのではないだろうか。

## 地域の商店街が教室となって、ナナメの関係をつなぐ授業の実践から

### 調査方法

東京都にあるA短期大学の授業を同じ地域の商店街にある銭湯で行った。銭湯が営業していない時間帯（午前中）に脱衣所を教室とした。「地域と子育て」をテーマにした短期大学の授業では、商店街と協力しながら子育てや子どもに関連する商品を開発して、商店街で販売するという活動を行っている。その授業の一環として商店街で販売する「子ども

表1 中学生と大学生の語りの例

テーマ	発話者	語りの内容
進路決定について	中学生①	見本になる人が周りにいなくて、普通の会社に勤めるってどういう感じか分からない。どうやって進路って決めたんですか？なんで保育士になろうと思ったのですか？
	大学生①	小学6年生の時に1年生のお世話をよくして、担任の先生から「そんなにちっちゃい子が好きなら、子どもと関わる仕事に就いてみたら？」って勧められたの。
	中学生②	へー、担任の先生、よくみてるんですね。
	大学生①	それから中2の時にいった職場体験で保育園に行って、そこで初めて保育士の仕事を知った。仕事にするのも面白いかもって思って。
	中学生①②	職場体験って、私たちまだこれからだね。
	中学生③	何をやりたいのかわからないし、何に向いているのかも分からない。仕事どうしようって悩む。
	大学生①	まだこれからだよ。中1で進路まで決まっても、大丈夫だよ。
	大学生②	いろいろ見て、学んで、幅を広げて選択肢を広げておくのがいいかもね。

向け商品の開発会議」と「みんなの進路について大学生との話し合い」に参加したい中学生を、商店街を通して募った。

## 調査手順

授業時間の中で前半は大学生があらかじめ準備してきた試作品を中学生と一緒に囲み、中学生の視点から形や色、値段、売り方などの意見を言ってもらう。大学生と中学生が打ち解けたところで、後半は、中学生に進路についての考えや悩みなどを大学生に気軽に話してもらい、大学生には自身の中学時代の話や今の進路を決めた理由などを話してもらい、お互いの話をする時間とした。

商品開発会議と進路についての話し合いが終わった後、アンケート調査を行った。

## 研究協力者

保育士養成校のA短期大学専攻科の学生6名と同じ地域の中学校に通う中学1年生3名。

## 調査日

2021年11月土曜日の午前中(10:00から12:00)に行った。

表2 授業後の中学生の感想

①大学生やその世代について普段どのようなイメージをもっていますか。
・流行の中心の人
・ボランティアとかによく参加しているイメージ
・大変そう
・友達がたくさんできそうで楽しそう
・自分らしく生きていそう
②今日、大学生と実際に関わって感じたことを教えてください。
・子どもに慣れていて、優しい雰囲気
・初めて会ったけど優しくて楽しかった
・勉強にとらわれているわけでもなく、自分の思うようにやっていた。
③今日、大学生と話してみて、自分の進路について何か学んだり、ヒントをもらったりしたこと、感想などあれば教えてください。
・焦らずに自分のやりたいことを見つけていけばいいと思った。明るくて話しやすかったです。
・自分ができると思うことをやればいいと思いました。気軽にいろいろ話せてとても楽しかったです。また話したりしたいなと思いました。進路以外にも趣味についても話りたいと思いました。
・色々な話が聞けて楽しかったし勉強になりました。良い経験になったので、また機会があれば会いたいです。

進路に対して漠然とした不安や焦りのあった中学生に対して、大学生は高校を決めた時期やその経緯、保育士を仕事に選びそのための進路に進もうと決めた時期やその経緯、中学生の時にどのような日常生活を送り、どんなことを考えていたかといった具体的な話をしていた。中学生の感想の中に「焦らずに自分のやりたいことを見つけていけばいいと思っ

た」「自分ができると思うことをやればいいと思いました」というも記述があり、気軽に話せたことによって前向きな気持ちにつながっていた。

大学と中学校が同じ地域であり、同じ地域にある商店街で販売する商品開発を一緒に行えたこと、商店街での販売の際に大学生と中学生がまた会える距離であることなどもあり、「進路以外についても語りたい」「また機会があれば会いたい」という思いにもつながっていることも伺えた。

授業後の学生の感想（下線は筆者による）の中には、「今の中学生の生の声を聞いたことで、自分が中学生だった時のことを思い出しました。当時の自分と比べて、考えをしっかりと持っている中学生だと思いました。話してみたことで、自分の今の中学生に対してのイメージと違う部分もあって、話していて楽しかったです。」と、学生が自分自身の中学生時代を振り返ることで、自身と今の中学生を比べたり、また中学生当時の自分自身から今の自分への成長を感じたりすることにもつながっていた。また、「今まで、保育の視点で考えることが多かったので対象を「乳幼児と子育てする母親」に定めて考えることが多かったなと改めて思いました。今回、なかなか関わる機会が少ない中学生と触れ合えたことで、自分にはない考えやアイデアに気付かされた貴重な機会になりました。しっかりと話し合いができたので良かったです。」「今回の交流でお互いを刺激しあえてたらしいなと思いました。」というように、ナナメの関係性のベクトルは、中学生から大学生に向かうだけでなく、大学生にとっても中学生と関わることによって新しい学びや発見、刺激につながっていたことから、双方向のベクトルでつながり合えることも明らかになった。

## 中学生の主体的な学びを引き出す持続可能な学習の場のために

中学生の、より主体的な学びは、中学校に地域・社会の様々な立場の人を招くといった授業形態だけでなく、中学生が地域に出向いたり大学の授業に参加したりして異校種間の関係性が広がり、学びの選択肢が増えることによってより広がっていくものと考えられる。

本稿において、その可能性を探るために行った授業の実践では、地域の大学だけでなく、地域の商店街との連携によって授業の場を設けることができた。授業後も地域の商店街を舞台に、大学生と中学生が「共同開発した子ども向け商品」を通してつながり合うことができていた。

大学生にとっては、授業テーマであった「子育てや子どもに関する商品開発」のアイデアを中学生から出してもらうことで学びや気づきにつながり、中学生への進路相談の相談役になることによって、中学生が前向きに自らの課題に向き合う一助となることができた。中学生にとっては、一方的に大学生から進路のアドバイスをもらうといった受け身の立場ではなく、商品開発会議で大学生が気づかないような中学生ならではのアイデアを出し、提案したアイデアが採用されたことで、「自分の意見が役に立った」という実感を得ることもできた。中学生と大学生の関わりの舞台として場を提供した地域の商店街にとっても、商店街での商品開発に関わることが、少なからず商店街の活性化にプラスの効果を与えていたといえる。

中学生の主体的な学びの場を維持・継続させていくためにも、双方向で役に立ち合う関

係性, お互いが影響しあえる関係性を形成することは必要なことであると考えられる。そして, その学びがイベント的な一過性のものでなく, 無理なく継続して行えるものにするためにも, 地域の関係機関や異校種間での連携は重要であるといえる。学校間だけでなく地域の商店街等のネットワークを組み, 関わりができる居場所づくりを進めたり, 中学生の放課後や土曜日も活用したりすることによって, より持続可能なつながりを形成することができるのではないだろうか。

---

## 【参考文献】

- 川合宏之 2021 「高校生と大学生の協同生の要因と変容—高大連携授業におけるナナメの関係に着目して—」 流通科学大学 高等教育推進センター紀要 第6号, 21-41.
- 澤田英三 2019 「子どもにとって『ナナメの関係』はどのような役割を果たしているのか—生徒指導・進路指導において児童生徒の多面性を受容する存在として—」 安田女子大学大学院紀要 第24集
- 中央教育審議会 「今後の学校におけるキャリア教育・職業教育の在り方について (審議経過報告)」, 2007.
- [https://www.mext.go.jp/component/b\\_menu/shingi/toushin/\\_\\_icsFiles/afieldfile/2009/11/05/1286524\\_1.pdf](https://www.mext.go.jp/component/b_menu/shingi/toushin/__icsFiles/afieldfile/2009/11/05/1286524_1.pdf)
- 中央教育審議会 「今後の学校におけるキャリア教育・職業教育の在り方について (答申)」, 2011.
- [https://www.mext.go.jp/component/b\\_menu/shingi/toushin/\\_\\_icsFiles/afieldfile/2011/02/01/1301878\\_1\\_1.pdf](https://www.mext.go.jp/component/b_menu/shingi/toushin/__icsFiles/afieldfile/2011/02/01/1301878_1_1.pdf)